

全経簿記出題範囲改定に関するQ & A

勉強を続けてきましたが、出題範囲の変更によりこれまでの勉強は無駄になるのですか？

これまでどおり出題される範囲が数多く残っていますので、無駄にはなりません。すでに身につけた知識を確認しつつ、新たに加わった論点に重点的に取り組むことで、効率的な学習が可能です。

これまで1級の出題範囲だったものや新しい項目が2級で出題されることになりましたが、2級の試験はかなり難しくなるのでしょうか？

今回の改定では、各級のレベル（出題理念・合格者の能力）の水準は変更していません。1級から2級に移行した論点については、1級で出題されていた内容がそのまま出題されるわけではなく、新しい項目についても1回の試験ですべて出題されるわけではありません。また、五伝票制、特殊仕訳帳、荷為替手形、繰延資産、社債（発行及び利払い・満期償還）、本支店会計（本店集中計算制度・未達事項の整理）といった論点を、2級から1級（一部上級）に移行するなど、総合的な学習負担にも配慮し、出題範囲を変更しています。

**出題範囲の変更により、見たこともない問題ばかり出題されるのでしょうか？
これまでの過去問題は参考になりませんか？**

これまでどおり出題される範囲が数多く残っていますので、「見たこともない問題ばかり」にはなりません。過去問題と同じ論点、似かよった形式での出題も引き続き行われますので、出題範囲から外れた論点を確認したうえで、これまでの過去問題も各級で参考としてご利用いただけます。

新しい2級工業簿記の勉強はどうすればよいのでしょうか？

平成 29 年度の試験に対応した「全経簿記能力検定試験公式テキスト&問題集 2 級工業簿記」（ネットスクール出版）が発刊されていますので、ご利用ください。また、本サイト上の「見本問題」も併せてご利用ください。

基礎簿記会計～2級の出題範囲となったものは、今後は1級では出題されなくなりますか？

上位級の出題範囲には、下位級の範囲も含まれますので、上位級から下位級に移行された論点を含め、基礎簿記会計～2級で出題される論点については、非営利組織を除いて1級で出題される可能性があります。

今回、各級で出題範囲から外れたものは、今後は出題されなくなりますか？

すべての級の出題範囲から外れた論点は出題されなくなります。具体的には、対照勘定、総記法、後入先出法、社債の償還、内部利益の控除、キャッシュ・フロー計算書、連結貸借対照表、連結損益計算書、財務諸表等規則・ガイドラインは、今回の改定に伴い、基礎簿記会計～1級までには出題されず、上級での扱いになります。

4月に販売する過去問題集で対策は可能でしょうか？

平成29年度の試験に対応できる形式で過去問題集を作成しておりますので、4月に販売予定の10回分（*予定）の過去問題集で対策は十分可能です。また、見本問題も掲載しておりますので、併せてご活用ください。